

学習内容報告書 1

学校名	本部町立瀬底小学校
授業者	玉城陽一朗（5年担任）、宮城光（6年担任）他

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「豊かな体験を通して感性を磨くとともに瀬底島の現状等を知る」

1-2. 学年

5・6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、学級活動

1-4. 単元の概要

本単元は、美しい自然環境に恵まれた瀬底島の魅力を体感させる体験活動を通して、ふるさと瀬底を愛する児童を育成することをねらいとしている。全幼児児童で実施の5月の遠足「瀬底の磯歩き」に始まり、6月に今年度初めて全幼児児童で行ったグラスカヌー体験、5.6年生はシュノーケリング体験でサンゴ礁の海を感じ、3学期には当日は悪天候のため中止となったが、ホエールウォッチングの事前授業を行うことができた。自然環境はもとより、地元には学校とともに子供たちを育てたいという協力者が多く、充実した体験活動を実施することができた。これらの体験活動を踏まえて、単元2（4.5.6年生）、単元3（5,6年生）の学びに繋げることができた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

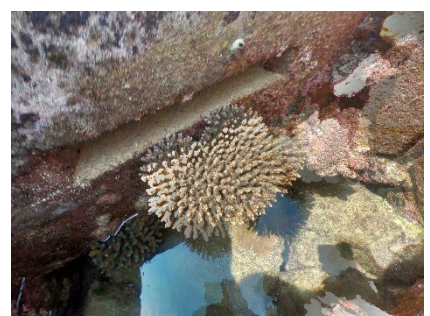
四方を海に囲まれた瀬底島は美しいサンゴ礁に恵まれ、観光客のみならず世界中のサンゴの研究者が訪れる魅力的な島である。昨年度から海洋学習に取り組み、高学年を中心に美しいサンゴ礁やサンゴ礁の海が直面している問題に気づくことができた。海洋学習2年目も豊かな体験活動を多く設定し、瀬底島の魅力を体感させることにより感性を磨き、ふるさと瀬底を愛する心を育むことをねらいとして本単元を設定した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ① 海に親しむ 《学びに向かう力・人間性等》
- ② 海を知る 《知識及び技能》
- ③ 海を守る 《学びに向かう力・人間性等》
- ④ 海について発信する 《思考力・判断力・表現力等》

1-7. 単元の展開（全 17 時間）※6 年生は 16 時間

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	◎瀬底の磯歩き・生き物観察（全幼児児童） ・外部の協力者の専門的見地からのガイドで、浅瀬の生物やサンゴについて学ぶことができた。同時に海の危険生物に関する講話を通して、海の安全教育も行った。浜辺で弁当も食し自然を満喫した。	◎全幼児児童による瀬底の磯歩き・生き物観察 【学校行事：遠足(3)】①親しむ ②知る 外部連携：自然体験うみゆくい 千野 精一郎 琉球大学瀬底研究施設 神座 森 瀬底区前区長 大城 昇源、保護者等
5	◎サンゴ学習（5 年のみ） ・外部の協力者から、サンゴの基礎知識を習得する。 ◎サンゴ学習（観察） ・学校近くの漁港に行き、実際のサンゴを観察の仕方を学び、自分のお気に入りのサンゴを定点観察する。	◎サンゴ学習【総合(1)】 外部連携：自然体験うみゆくい 千野 精一郎 琉球大学瀬底研究施設 神座 森 ◎サンゴ学習（観察）【総合(4)】①親しむ ②知る 外部連携：沖縄美ら島財団 野中正法
8	◎シュノーケリング体験 事前学習① ・サンゴ学習 千野精一郎さんの進行でサンゴの専門家との学習を実施 ◎シュノーケリング体験 事前学習② ・シュノーケリング練習・安全教育 ※シュノーケリングに係る着衣方法や道具の使い方の実際、及び安全な体験のための学習 ◎シュノーケリング体験 ・多くの関係者の協力のもと、5・6 年生全員がシュノーケリングを体験し、瀬底の海の素晴らしさを体感した。	◎事前学習【総合(2)】②知る 外部連携：自然体験うみゆくい 千野 精一郎 琉球大学瀬底研究施設 神座 森 ◎事前学習【総合(2)】②知る 外部連携：自然体験うみゆくい（エコツアー事業者） ダイブナッツ（ダイビング事業者） 美ら島ダイバーズマリナサービス伊豆原啓史 ◎シュノーケリング体験【総合(4)】①親しむ 外部連携：自然体験うみゆくい（エコツアー事業者） シードアー（ダイビング事業者） 美ら島ダイバーズマリナサービス伊豆原啓史 琉球大学瀬底研究施設 神座 森 本部町グッジョブ連携協議会
1	◎ホエールウォッチング事前授業 ・鯨の生態等についての事前学習 ◎ホエールウォッチング体験 ※天候不順のため中止	◎事前授業【総合(1)】②知る 外部連携：瀬底ビーチマリクラブ



2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- 1 事前学習を活かして安全にシュノーケリングをする。
- 2 シュノーケリング体験を通して、瀬底のサンゴの海に触れ、気づきや考えを持つ。
- 3 多くの人の協力と想いのもと、シュノーケリング体験ができることに感謝の気持ちを持つ。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>◎教育委員会のマイクロバスで山川港へ</p> <p>◎港にて講習</p> <p>◎船 2 隻に分かれて体験ポイントへ移動</p> <p>◎シュノーケリング開始（体験ポイントは 2 か所）</p>  <p>◎シュノーケリング体験終了 山川漁港へ移動</p> <p>◎港到着 シャワーへ移動 学校へバスで移動</p> <p>◎振り返り・まとめ</p>	<p>◎安全・マナー</p> <p>◎講習</p> <p>※講習・実技の実際はインストラクターで実施。 教師の役割は主に安全安心・礼儀・感謝の視点</p> <p>※事前学習で学んだ注意点の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュノーケルの使用方法や水中での安全な行動 ・熱中症対策（水分補給）等 <p>◎5・6 年に分かれて船で移動。</p> <p>※体験全般を通して児童の体調面に留意する。</p> <p>◎シュノーケリング開始</p>  <p>◎体験終了 移動</p> <p>◎港到着 ボランティアの皆さんへの感謝の場</p> <p>評価：①海に親しむ《学びに向かう力・人間性等》</p>

3. 今回の活動の自己評価

単元1の体験学習は、関係者との事前の綿密な会議等を経て実施することができた。その中心として学校と地域を結ぶコーディネーター役を果たしたのが、元保護者でエコツアー業者でもある千野精一郎さんである。学校への想いと子供たちのために何かしたいという地域関係者の想いを繋げる大きな役割をになって頂いた。「保護者・地域に開かれ共に歩む 信頼され魅力ある学校」を目指して本校は学校経営を行っているが、シュノーケリング体験の取り組みはその最たるもので、学校と社会との連携及び協働により、子供たちに求められる資質・能力を育てていくという、社会に開かれた教育課程の一例と考える。

当日の子供たちの様子は、初めて体験する5年生は感動の連続であったが、一方の6年生は昨年の海の様子との違いやサンゴに付着したビニールや漁業用網等のゴミに気づき、更には1年間のサンゴ学習の積み重ねから、気づきや深く考えるきっかけとなっていた様子であった。

4. 今後の課題

海洋教育パイオニアスクール2年目の今年度は、1年目の流れを職員・地域の協力者が把握していることで、打合せの段階から活発に意見の交換や昨年度の改善案を話し合うことができた。次年度は学校職員の入れ替えも多く、パイオニアスクールについての丁寧で細かな説明が必要になってくると考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にございません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。